

観光社会資本の事例

テーマ	中山道木曽路を今も支える「木曽の棧」
【施設の状況写真】	
	
往時の石積棧道を保存した「木曽の棧」 石積技術の変遷が解る。	
【施設の利用写真】	
	
大型トラックや観光バス、乗用車が走る 棧道橋。木曽地域の経済、産業を 支えている。	昭和41年3月、長野県史跡に指定。 周辺には芭蕉や子規の句碑があり、 地区の観光スポットとなっている。
【観光資源としての利用状況】	
かけはし棧道橋(通称:木曽の棧)を含む国道19号は、木曽地域の住民生活の利便性向上に、大きく貢献してきた。歴史的には、明治44年にそれまでの木造から石造に整備。この頃は車馬の通行が主であったが、昭和30年代に入り自動車交通量が増加、安全で安心して通行出来る道路が必要となったことから、昭和41年、コンクリートの棧道橋として整備され、大型車両も安心して通れる道路となった。その時、保護活動によって従来の石積を一部保存したことから、現在も往時の姿を垣間見ることが出来ます。	
周辺には芭蕉や子規の句碑が存在し、木曽路に刻まれた遠い歴史に心を馳せるスポットとして観光客が訪れています。	

